

# 夫婦の家事分担の行方

— 妻は夫婦の「平等な」家事分担を望んでいるのか —

上席主任研究員 北村 安樹子

※本稿は2019年12月30日付で「MONEY PLUS」に掲載された原稿に加筆したものである。

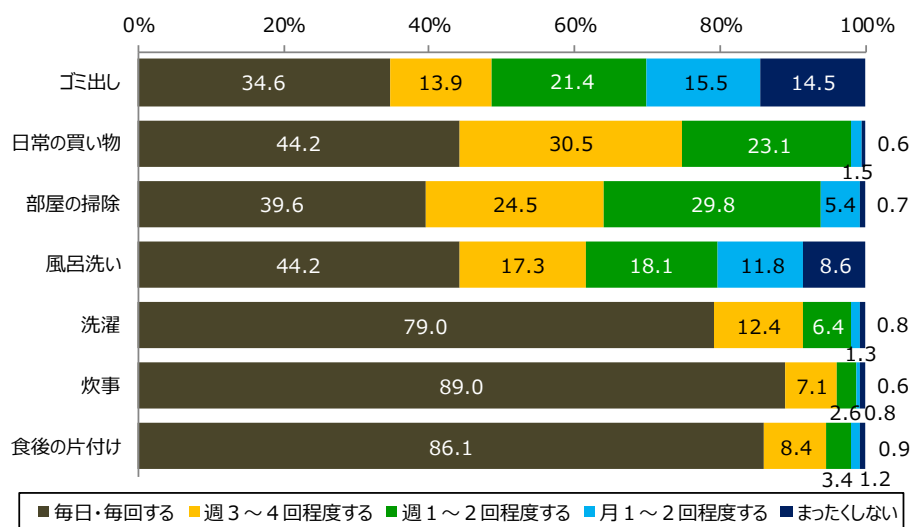
## <妻から見た夫婦の家事分担>

「家事」というテーマは案外奥深く、行う範囲やかける時間、使う道具にもかなりの幅がある。なかでもどこまでの作業を家事に含めるか、そして、それらの「家事」をだれが、より頻繁に行うのかについては、不満を感じている女性が多いとされる。

このようななか、国立社会保障・人口問題研究所では今年9月、「ゴミ出し」などの“家事”とともに、「食事の献立を考える」などふだん家事として語られることの少ない日常的に必要な家事を“見えない家事”として、夫婦におけるこれらの分担の実態等に関するレポートを公表した。

有配偶女性を対象とするこの調査についてまとめた資料によると、「ゴミ出し」「日常の買い物」「部屋の掃除」「風呂洗い」「洗濯」「炊事」「食後の片付け」といった“家事”ではいずれも妻の行う頻度が高く、「食材や日用品の在庫の把握」「食事の献立を考える」「ごみを分類し、まとめる」「家族の予定を調整する」といった“見えな

図表1 妻の“家事”の遂行頻度

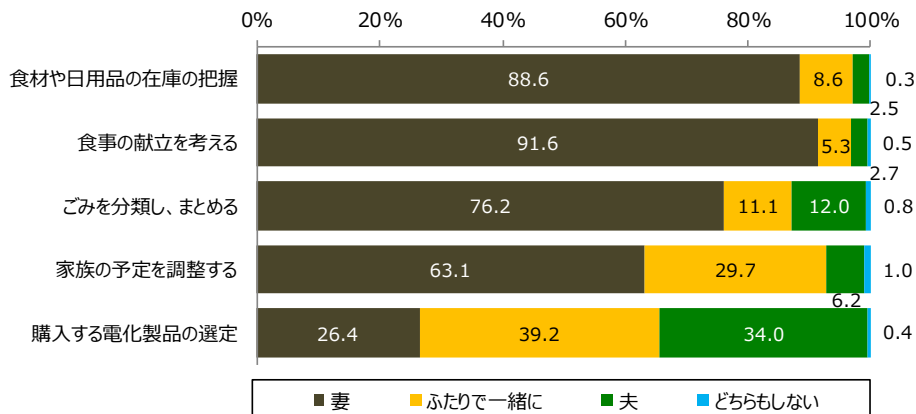


注：集計対象者は、全国の有配偶女性6,142名のうち、すべての家事の種類について回答した60歳未満の人。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

資料：国立社会保障・人口問題研究所「第6回家庭動向調査 結果の概要」2019年9月

い家事” についても、夫に比べ妻の担う割合が高い実態がある（図表 1、2。ただし「購入する電化製品の選定」に関しては「ふたりで一緒に」や「夫」の割合が「妻」よりも高い）。この資料では、これらの実態とともに「夫も家事や育児を平等に分担すべきだ」との考えに賛成する女性が 8 割を超えること等からも、「妻に偏る家事育児の分担について、夫婦の平等が求められる」と強調している。

図表 2 夫婦における“見えない家事”の遂行頻度



注：資料は図表 1 に同じ。「妻」は「妻」「どちらかという妻」、「夫」は「夫」「どちらかという夫」の合計割合。

### <妻は夫との「平等な」家事分担を望んでいるのか？>

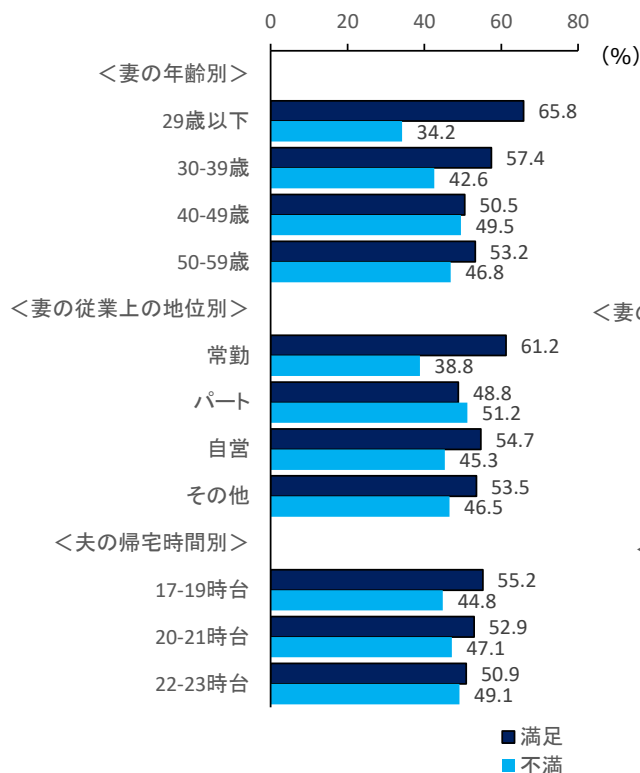
この調査が興味深いのは、妻の回答に基づいて家事の実態や妻の負担感等に注目している点である。調査結果をみると、確かに“家事”や“見えない家事”の多くで担い手は妻に偏っており、一見、夫にとってかなり厳しい情勢といえる。しかしながら、同じ設問やそのような状況にある理由を夫に詳しくたずねる機会がもしあれば、もう少し異なる回答が得られる可能性もあっただろう。例えば、本心ではもう少し手伝えたらと思っている夫や、妻がそれほど負担に感じているのであれば、その家事自体を減らしてはどうかと感じている夫もいる可能性はないのだろうか。

実際、この調査では夫の家事に対する妻の満足度や期待度もたずねている。その結果をみると、夫の家事の現状に不満を感じている妻の割合は、妻の年齢や働き方、夫の帰宅時間等によって異なるものの、おおむね 3 割から半数程度にとどまっている（図表 3）。特に、「29歳以下」や「常勤」の妻では「満足」と答えた人が 6 割を超え、不満を感じている人の方が少ない傾向にある\*1。また、先の資料では、夫の家事への協力について「期待する」（調査票では「期待している」もしくは「まあまあ期待している」とした妻の割合が、「29歳以下」や「常勤」の妻では「期待しない」と答えた人をわずかに上回っているが、それ以外のグループでは大幅に下回っている（図表 4、「期待しない」には「もともと期待していない」と答えた人を含む）。

回答者には、出張や夜勤・早朝勤務など夫婦の働き方が不規則で、夫婦で家事を平

等に担うことが難しいケースもあれば、夫婦の働き方によらず、妻の側が夫に家事を委ねることを好まない場合もあるだろう。妻が担う家事の種類やそのやり方、求める水準、夫婦の働き方や収入バランスといった要素が、妻への負担の偏りや妻の負担感につながっている可能性もあると思われる。

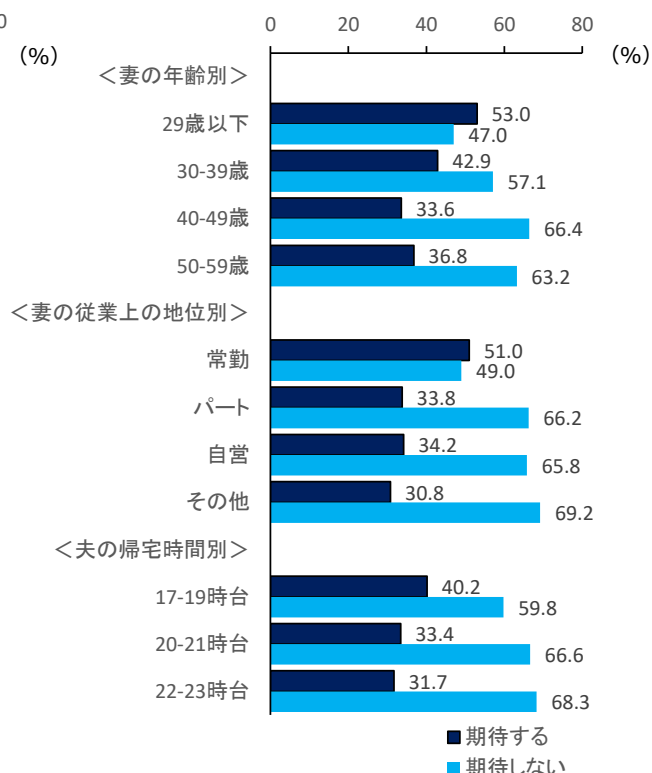
図表3 夫の家事への協力に「満足」「不満」と答えた妻の割合



注：「満足」は「非常に満足」「まあまあ満足」、「不満」は「やや不満」「非常に不満」の合計。夫の帰宅時間に関しては、夫が自宅外で仕事をしている場合に限って集計。自営には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦。

資料：図表1に同じ

図表4 夫の家事への協力に「期待している」「期待していない」と答えた妻の割合



注：「期待している」は「非常に期待している」「まあまあ期待している」、「期待していない」は「あまり期待していない」「ほとんど期待していない」「もともと期待していない」の合計。それ以外の注記は図表3に同じ。

資料：図表1に同じ

### <妻の不満の本質は>

先の資料が提案するように、家事や育児を夫と妻が同じように担える体制であることは、ふだんの生活はもちろんのこと、どちらかが転職や学び直しを行う場合だけでなく、子育てや介護、ケガや病気等で仕事や働き方を調整せざるを得ない場合にも、世帯としての適応力を高める面があると思われる。

しかしながら、家事分担をめぐる妻の不満には、家事効率化のための手段や求める家事の水準への価値観を夫婦で共有できないこと、あるいは仕事や子育ての負荷が大きく、家事以外の面を含め望ましいライフスタイルを実現できていないこと等が関連している可能性もあるだろう。また、妻の家事負担を軽減するには、夫が家事をもつ

と担う以外にも、家事に優先順位をつけて取捨選択することや、家事の種類によって家族で役割分担をはかること、時短家電を利用することなど多様な手段が考えられる。

このように考えると、夫の家事への協力に対する妻の不満の本質は、ケースによっては家事分担の不平等にあるのではなく、ライフスタイルをめぐる夫婦の意思決定やコミュニケーション不足にある場合もあるのではないだろうか。このような場合、夫婦の「平等な」家事分担に限らず、家事以外のライフスタイルも含めどのような手段がとれるのかを話し合ってみることや、これまでとは異なる方法を試してみることも、妻の不満を和らげる可能性があると思われる。

(ライフデザイン研究部 きたむら あきこ)

### 【注釈】

- \*1 この調査では、妻からみた夫の“家事”の遂行頻度もたずねている。その結果をみると、週に1～2回以上の頻度で夫が家事を行っている妻の割合は、妻の年齢が29歳以下の場合や、妻が常勤である場合に、他のグループに比べ高い傾向にある。